

「平成 26 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」
中期計画シート（詳細版）

小浜温泉地域における温泉資源を活用した
低炭素まちづくりと持続可能な観光地域
づくりへ向けた協働取組事業

請負契約の受託団体の法人名	一般社団法人小浜温泉エネルギー
受託団体の代表者氏名	本多 宣章

目 次

- 1 組織概要
- 2 地域の課題
- 3 協働取組の概要
- 4 3年後のゴールイメージ
- 5 2015年度の目標・事業内容・スケジュール
- 6 2016年度の目標・事業内容・スケジュール
- 7 2017年度の目標・事業内容・スケジュール
- 8 事業実施における課題・リスクと対策
- 9 関係主体の全体図
- 10 関係主体の役割

1 組織概要

組 織 名	一般社団法人小浜温泉エネルギー		代表者名 (役職名)	本多宣章 (代表理事)
所 在 地	〒854-0514 長崎県雲仙市小浜町北本町 923-4		電話	0957-74-3345
			FAX	0957-74-3345
ホームペー ジ	http://obamaonsen-pj.jp/		e-mail	info@obamaonsen-pj.jp
組織体制	役 員	8名	会 員	0名
	専従者 (従業員)	4名	ボランティア	0名
	パートタイム	0名	そ の 他	0名
	創 立 年	3年	法人設立年	平成23年
これまでの 環境活動の 実績	平成23年3月	小浜温泉エネルギー活用推進協議会設立記念シンポジウム開催 (ジオパークにおける低炭素まちづくりと地域再生)		
	平成23年5月	未利用温泉熱の有効活用と地域活性化を目指し、「一般社団法人小浜温泉エネルギー」設立		
	平成23年度	小浜温泉エネルギー活用推進協議会開催 (3回)		
	平成24年	シンポジウム開催 (ジオパークにおける低炭素まちづくりと地域再生II)		
	平成24年度	小浜温泉エネルギー活用推進協議会開催 (4回)		
	平成24年度	長崎大学環境科学部共催：環境リレー講座開催 (4回)		
	平成25年	小浜温泉10源泉のモニタリング調査		
	平成25年	視察観光客向けパンフレット作成		
	平成25年	シンポジウム開催 (ジオパークにおける低炭素まちづくりと地域再生III)		
	平成25年	環境省委託事業による温泉バイナリー発電実証実験開始		
	平成25年	平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業		
応募概要	事業名	小浜温泉地域における温泉資源を活用した低炭素まちづくりと持続可能な観光地域づくりへ向けた協働取組事業		
	該当地域	<input type="checkbox"/> 全国 <input checked="" type="checkbox"/> 地方		
	事業実施地域	長崎県雲仙市小浜町 (小浜温泉地域)		

2 地域の課題

【現在表面化している問題】

- 1.小浜温泉は非常に恵まれた温泉資源があるにも関わらずその約7割がそのまま海に排出されており、温泉熱の有効活用が大きな課題である。
- 2.小浜温泉地域並びに島原半島全域は自然資源に恵まれているにもかかわらず、それらを観光や自然エネルギーなどに生かし切れていない。今後どのように取り組んでいくか、地域住民の間でまだ中長期的なビジョンが共有されていない。
- 3.温泉観光地であるが、観光客数がピーク時の半数程度に減少しており、減少傾向に歯止めがかかっていない。
- 4.若者が地域外に流出しており、高齢化が進んでいる。

【問題を放置した場合に想定される状況】

- ・温泉資源活用の機運が高まっている状況を十分に生かせず地域へ波及しない
- ・これまでと同様観光客数と人口の減少が続き、個別の市民活動も衰退していくと考えられる

【該当地域の社会的・地域的背景】

小浜温泉は国内初の国立公園ならびにジオパークを有する自然豊かな島原半島の西端に位置している。その半島内にある3市の1つ、雲仙市に小浜温泉がある。小浜温泉の歴史は古く、1300年前の肥前国風土記に記載されており、江戸時代から本格的な温泉地として発展した。

雲仙市は、平成17年に7つの町が合併して生まれた。しかし、昔から小浜町以外の各町はそれぞれ文化や主要産業が小浜町と違うこともあり、雲仙市または島原半島全体が足並みを揃えて協働で取り組むという機会が少なかった。ジオパークなど行政主導で取り組まれていることもあるが、これからは市民主導の協働取組の必要もある。

【地方公共団体の政策課題等との関係性】

平成26年度中に策定予定の雲仙市環境基本計画において、下記の課題が示されている

「雲仙市環境基本計画」より抜粋

3. 現況特性を踏まえた主要課題

3. 3 地域のくらしや活動を踏まえた環境の主要課題 (19頁)

(1) 再生可能エネルギーの活用等による低炭素なまちや活動への転換

今後も、小水力発電や地熱発電などの地域固有のエネルギー資源を生かした再生可能エネルギーを創出し、地域の様々な分野で使う、地産地消のエネルギー循環に取り組んでいくことが課題です。

(4) 多様な連携・協働による環境保全活動の推進 (20頁)

このようなイベント・交流活動等を通じた地元住民と都市住民が一体となった環境保全活動の展開は、農業人口の減少や高齢化が進み、農村環境の維持・管理が困難となっている現在、極めて重要な取組の一つです。外部の手を借りながら、地域活力を維持していく取組が求められています。

このように、地域のくらしや営みを維持していくとともに、豊かな環境を保全していくためにも、さまざま形で雲仙市が誇れる環境のすばらしさとその保全継承をアピールし、多様な主体間の連携を強め、協働の輪を広げていく取組を推進していくことが課題です。

3 協働取組の概要

【協働取組の目的とテーマ】

小浜温泉地域における未利用の環境資源を有効活用することを目的として、地元の活動団体と地元の教育機関が連携協力することで、地熱資源を活かした低炭素まちづくりを目指す。

また、環境保全活動と環境教育に力を入れた観光事業の創出と、地域住民に環境に関して学ぶ場と活動する機会を提供することで、地域全体で協働して環境保全活動に取り組み、地域活性化につながる持続可能な観光地域づくりを目指す。

【課題解決に向けたアイデアと協働プロセス】

第1段階：地元住民が環境保全活動に対して興味を持つきっかけをつくるために、これまで活動していた環境団体と地元教育機関が協働することで、新たな環境教育の場をつくる

第2段階：各団体の活動内容と小浜温泉の観光事業をつなげることで、環境保全活動をメインテーマにした新たな観光事業づくりをする

第3段階：地熱資源を活かすことで、自然エネルギー100%で賄われた低炭素なまちづくりをする

【地域・協力者の期待・ニーズとの整合性】

- ・地元教育機関の生徒が各団体の活動に参加することで、地域社会に参加しながら環境と観光について学ぶ機会を提供することができる（環境教育）
- ・定期的なセミナーやイベントの実施により、環境や地元の未利用環境資源に対する地元住民の関心や機運を底上げすることが期待できる
- ・温泉発電事業や熱利用事業を協働することで、地域の取り組みを見に来る観光客や視察者の増加が期待できる（新たな観光の目玉）
- ・新たな事業を展開できる仕組みをつくることで、未利用資源を活用した事業や活動の展開がスムーズになる（新たな産業の創出）

4 3年後のゴールイメージ

【2017年度末のゴールはどこか（最高の状態）】

各WGから発生したプロジェクトが事業化もしくは活動が自主的・自律的に取り組まれている。地域主導のもと協働してまちをつくっていく土壌が形成されており、環境活動と観光事業の融合により地域が活性化した温泉地のモデル地域となっている。

協議会は、それぞれの取り組みを共有発展させる場として継続している（産業クラスター）。外部からの参加者も増え、客観的かつ専門的な視点から小浜温泉の各PTが効果的なアドバイスやネットワークを得ることができる状態。

島原半島3市が環境・観光を中心に連携し、半島単位の活動が展開されている。

【2017年度末のゴールはどこか（望ましい状態）】

事務局が旗振り役でありながらも、地域の協働取組が活発に実施されている。

小浜温泉ジオツアーが拡充し、年間3,000名程度が参加している。

地元教育機関での環境フィールドワークが年間プログラムに組み込まれている。

島原半島3市がそれぞれの環境活動について独自に実施しつつ、緩やかな連携体制のもとジオツアー等を協働して行っている。

【2017年度末のゴールはどこか（確実に達成する状態）】

事務局の支援のもと、地域の協働取組事業が継続的に実施されている。

地域の環境イベントが恒例化し、様々な団体の参加のもと試行的な取り組みを実施できる場となっている。

小浜温泉ジオツアーが小浜温泉を代表する観光プログラムとなっている。

島原半島3市連携会議が設立され、定期的な協議が行われている。

【事業の結果を測る指標（アウトプット）】

- ・小浜温泉ジオツアーを、内容を拡充しながら通年実施する
- ・地元教育機関の環境フィールドワークを恒例化する（小中高校それぞれ年1回以上）
- ・協働イベントを恒例化し、毎年2回程度開催する
- ・小浜温泉地域における、再生可能エネルギー自給率100%を目指す中期計画を設定する
- ・島原半島3市の環境モデルプランを策定する

【事業の効果を測る指標（アウトカム）】

- ・ジオツアーなど環境に関連したプログラムの年間観光客数を本事業実施前と比較して平均50%増加させる
(H23年度まち歩きガイドツアー：約2000名→H25年度ジオツアー：約2,500名→3,000名へ)
- ・協働取組から発生するプロジェクトを「105」発信する
- ・本事業の取り組み実績を踏まえ、長崎県・雲仙市などと小浜温泉地域全体及び島原半島全域に環境活動・教育活動・観光をつなげる協働取組（島原半島スマートコミュニティ）の協議会を設立する

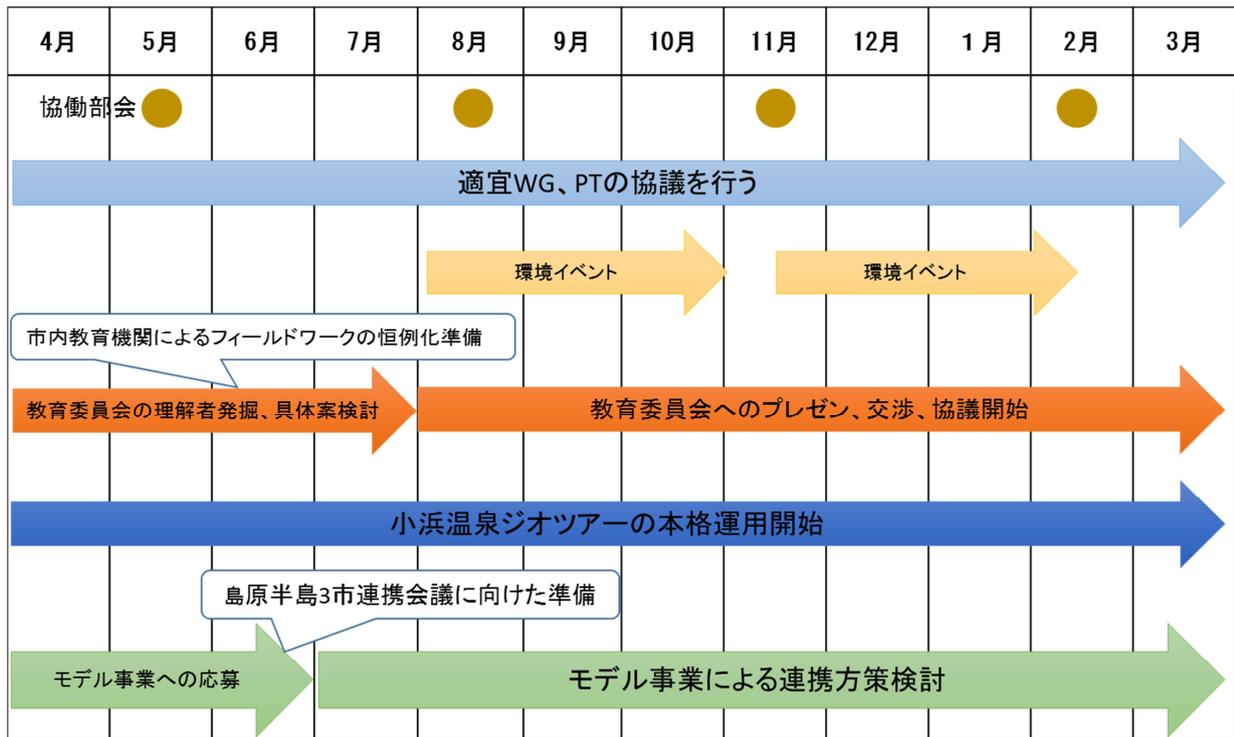
5 2015年度の目標・事業内容・スケジュール

【2015年度の目標】

- 1：2014年度時に存在していたWGの事業化、又は持続性のある取り組みへの発展
- 2：市内教育機関による発電所をメインとした小浜温泉エコフィールドワーク（社会科見学）の恒例化に向けた教育委員会との交渉開始（2017年からの展開を目指す）
- 3：小浜温泉ジオツアーの本格運用開始
- 4：島原半島3市連携会議の設立補助・計画策定への参画
- 5：協働部会を定期開催し新たな取り組みの発足を後押しする（ノウハウの集約・試行）
- 6：年2回の環境イベントの実施（以後毎年度）

【目標を達成するための具体策】

- 1：定期的な協議会の開催をサポート（会議室の提供や資料作成・文書作成のサポート等）
- 2：教育委員会内の理解者の発掘及び具体案検討。プレゼン・交渉開始
- 3：発電所所有者と小浜温泉観光協会、旅行代理店等との協働で積極的に広報を行う
- 4：島原半島3市連携会議を設立するためのモデル事業への応募およびその補助
- 5：協働部会の統一された開催内容を協議する（小浜温泉大学の構想も随時検討）
- 6：これまでの環境イベントを新たな参加者を募りながら発展させる



6 2016年度の目標・事業内容・スケジュール

【2016年度の目標】

- 1：WGの事業化、又は持続性のある取り組みへの発展を2017年度開始までに完了させる
- 2：教育機関による小浜温泉エコフィールドワークの恒例プログラム化実現に向けた最終調整
- 3：島原半島3市横断ジオツアーの検討及び具体案の決定（小浜温泉ジオツアーの広域化）
- 4：島原半島3市連携会議の定期開催
- 5：協働部会を定期開催し新たな取り組みの発足を後押し

【目標を達成するための具体策】

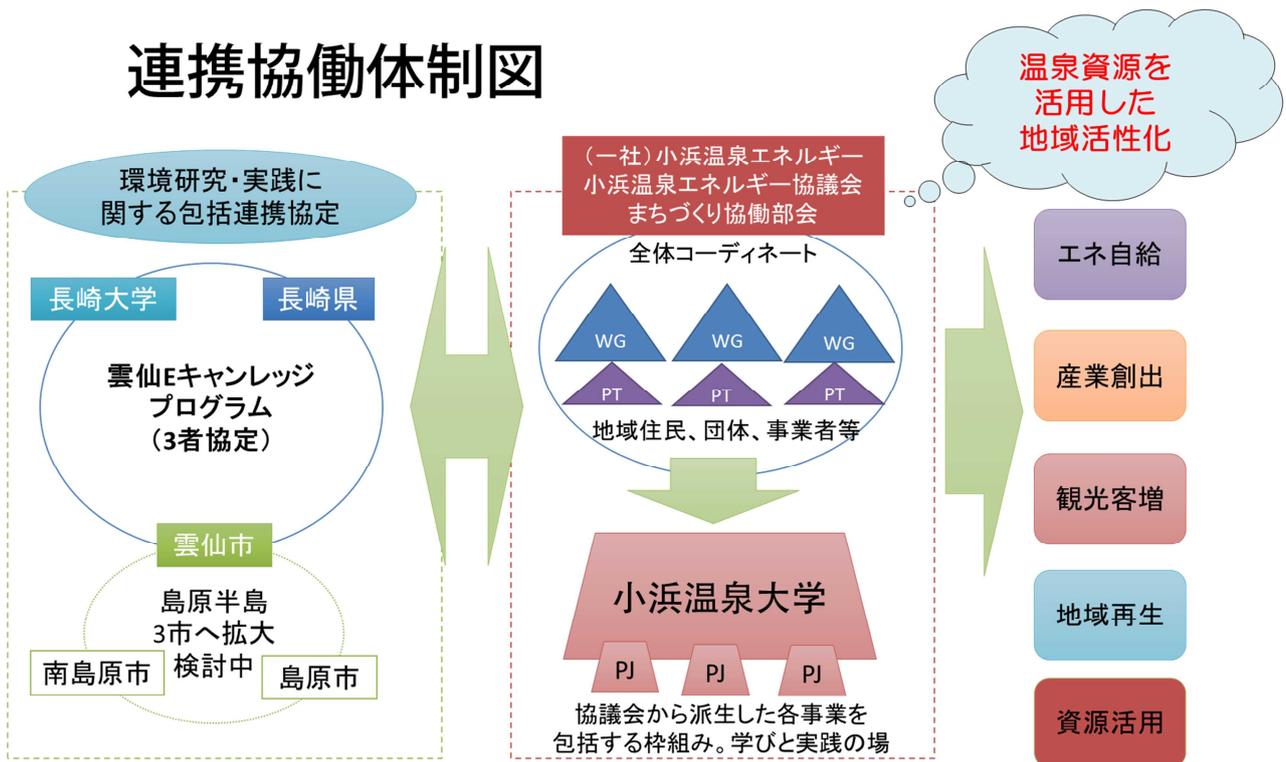
- 1：定期的な協議の開催をサポート（会議室の提供や、資料作成・文書作成のサポート等）
- 2：2015年に引き続き市教育委員会への説明と交渉
- 3：島原半島ジオパークの『火山と人との共生』というテーマに沿ったプログラムの検討
主に島原市『火山の脅威、災害復興』南島原市『海底火山から島原半島へ』
雲仙市『地熱の恵み活用事例』といった流れでストーリーをつくる
また3市連携会議設立に合わせた、他地域観光協会等との協働による具体案作成
- 4：島原半島3市連携会議の定期開催サポート（企画提案及び有識者とのパイプ役）
- 5：協働部会の開催内容を年初め又は前年度の協働部会で決定する



8 事業実施における課題・リスクと対策

分類	課題・リスク	対策
人員	<p>【協働取組サポーター（事務局）の person 費】 協働取組事業には、現在小浜温泉エネルギーが取り組んでいるサポート役が必要不可欠である。</p> <p>活動資金や協働事業で発生する person 費などは問題ないと思われるが、サポート役の person 費については今のところ目処が立っていない。</p> <p>このままでは、サポーターが無償ボランティアで行うか、サポーターのいない不安定な協働取組事業を実施することになる。 （中間支援組織の不在）</p>	<p>協働取組を実施する地域の自治体（雲仙市）に対して、地域活性化を担う人材の person 費を賄う制度（地域おこし協力隊など）を活用し、協働取組事業をサポートする人材を募集するよう提案する。</p> <p>協働取組事業による環境保全やコミュニティ形成に対する有用性や効果を外部から進言して頂くことで、雲仙市としても制度に取り組み易い環境が整うと考えられる。</p> <p>事務局も最低限の person 費の心配をすることなく協働取組事業のサポートに専念できる。</p> <p>サポート役など地域活性化を担う人材の person 費の問題解決は、今後の地方創生を大きく左右すると考える。</p>
財政	<p>運営資金、事業化資金</p>	<p>各 WG・PT で自分たちの活動目的に合った助成金等を活用していく。</p> <p>そのための申請や事業管理は可能な範囲でメンバーが分担して行う。</p>
法制度	<p>【法人格】 地域における取り組みには、すでに多くの支援制度が整っているが、その多くは法人格がないと対象とならないことが多い。</p>	<p>協働取組から派生した小浜温泉大学を法人化する</p>
行政	<p>2 年間参加し市の担当者の理解が深まり、協働取組事業についても重要性を認識していただいたところだが、すぐに部署異動がある。</p> <p>周辺市への拡大を図っていくが、各市の温度差があり、取りまとめができるか不透明</p>	<p>担当者・部署の判断による対応ではなく、市として取り組むことを行政計画に位置付けられた。引継ぎの徹底を依頼する。</p>

連携協働体制図



10 関係主体の役割

- ・一般社団法人小浜温泉エネルギーが全体をコーディネートし、まちづくり協働部会を運営する
- ・参加者はそれぞれの興味関心のある WG、PT に所属し活動を行う（複数グループへの所属も可能）
- ・各グループにて参加者からリーダーを選出し、事務局がサポーターとして補助する
- ・今後協議会から派生した各事業を包括する枠組みとして「小浜温泉大学」の設立を予定している
- ・長崎大学・長崎県・雲仙市の3者協定「雲仙 E キャンレッジプログラム」により、雲仙市を環境研究・実践フィールドとした活動が実施されている
- ・雲仙市は平成 26 年度内に策定予定の「環境基本計画」において、さらなる推進を盛り込んでいる。

【環境基本計画案】より抜粋

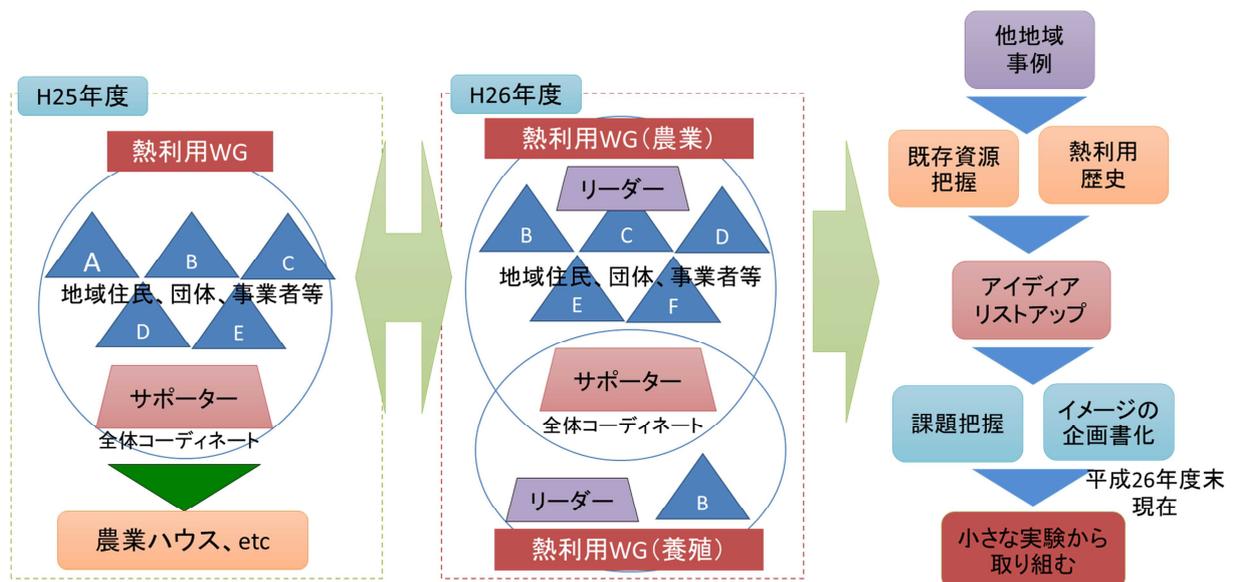
環境目標 6 市民・事業者・行政の協働が実現しているまち（協働の推進）	
施策目標 6-2	みんなで取り組もう
【E キャンレッジ推進】	
長崎大学(環境科学部)、長崎県、雲仙市等の島原半島3市の連携で、地域活性化の拠点、地域活動人材育成の実践教育の拠点として E キャンレッジ（エコ・キャンパス・ビレッジ）整備を推進している。温泉エネルギーの活用、ジオツーリズムなど様々な研究と公開学習・シンポジウムの情報発信に取り組んでいる。	

これらの活動により、地域のエネルギー自給や産業創出、観光客の増加による地域再生など、温泉資源を活用した地域活性化を協働取組により図るものである。

①参加者の役割と参加の経緯（熱利用 WG）

所属	役割	参加の経緯
地域 NPO 法人 代表	WG のリーダー。熱利用植物園 PT のリーダー。	昨年度からの参加。植物園に関して熱意がある。
水産会社	熱利用養殖 PT のリーダー。養殖に関する人と情報提供	昨年度から参加。リーダーの紹介。
まちづくり団体	経営などの視点から農業や漁業など外部のつながりや事例紹介	昨年度から参加。小浜のまちづくりに多く携わる。
農家	熱利用に活用できそうな農業の視点からアドバイス、地元人脈紹介	今年度から参加。事務局が参加依頼。
木材関係会社	熱利用に活用できそうな木材の観点からアドバイス、地元人脈紹介。	今年度から参加。知人からの紹介。
地域 NPO 法人 事務局長	熱利用に活用できそうな植物の視点からアドバイス、地元人脈紹介	昨年度から参加。植物園に関して熱意がある。
水産加工会社	熱利用に活用できそうな加工品の視点からアドバイス、地元人脈紹介	今年度から参加。事務局が参加依頼。
農家	熱利用に活用できそうな農業の視点からアドバイス、地元人脈紹介	今年度から参加。事務局が参加依頼。
酪農家	熱利用に活用できそうな酪農の視点からアドバイス、地元人脈紹介	今年度から参加。リーダーの紹介。
養鶏会社	熱利用に活用できそうな酪農の視点からアドバイス、地元人脈紹介	今年度から参加。事務局が参加依頼。

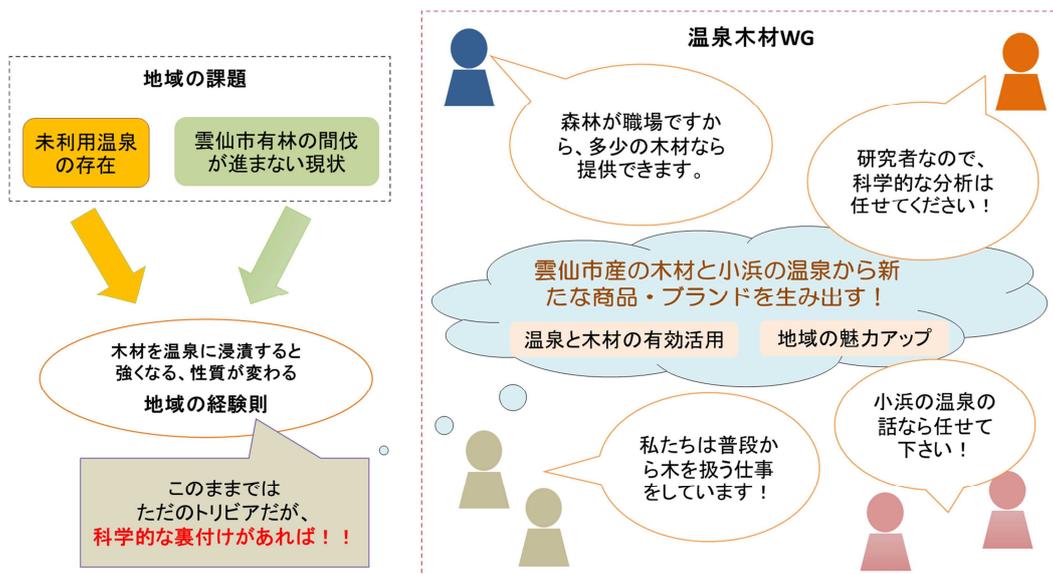
熱利用 WG 関係図



②参加者の役割と参加の経緯（温泉木材 WG）

所属	役割	参加の経緯
雲仙森林組合	WG のリーダー。雲仙市の林業に携わっている為、知識や経験等を有し、木材を使った実験用材の調達等も都合をつけやすい。	昨年度事業開始の段階で事務局からお声かけした。
長崎大学 工学部	長崎大学准教授。研究者の視点から助言や提案をしてくれる。大学にある実験設備を簡易実験などに利用できる。	元々は協議会の方のご紹介で知り合い、小浜温泉の地域おこし・エネルギー活用の話に共感していただいた。
小浜温泉 エネルギー 代表理事	これまで長年に渡り小浜温泉の温泉に関して携わってきており、木材を温泉に浸漬する簡易実験も行った事がある。源泉所有者。	弊社代表理事
木工会社	木を扱う仕事をしており、且つ地域活性化の為に取り組みを長年行っている。木材加工に関する知識を有する。	昨年度事業開始の段階で事務局からお声かけした。
雲仙市商工会 小浜支所	地元商工会として地域の活性化活動に関わっている。温泉木材の商品化を目指す上で、実際にマーケティングを行う際に必要な措置等の情報を持っている。	昨年度事業開始の段階で事務局からお声かけした。
木材関係会社	木材製材時に出るおが粉を扱い、また木質ペレットの製造やストーブの販売代理店等もてがけており、木材資源の活用について広い視野を有する。	以前、協議会のメンバーの方が木質ペレットの勉強会を開いた際に知り合い、今年度からお声かけした。
小浜温泉 エネルギー	採択団体の事務員として、当 WG のサポートにあたる。	弊社事務局員

温泉木材 WG 関係図



③参加者の役割と参加の経緯（まちづくりWG）

所属	役割	参加の経緯
観光ガイド	WGのリーダー。	観光ガイドの代表として昨年度より継続参加
設計事務所	ご意見番	県外からの1ターン者で、まちおこしへの意欲が高いので、事務局より参加要請
地元紙 支局長	各種イベント等の メディア発信	以前からメディア発信時は協力いただいております、観光への興味が高いことから事務局より参加要請
新社会人ネットワーク 小浜支社	メンバー	これまで長崎市内で様々な活動をされていた方で、まちおこしへの意欲が高いため事務局より参加要請
環境省 雲仙自然保護官	メンバー	環境省事業のつながりで昨年度より継続参加
小浜温泉 旅館組合長	メンバー	旅館組合の代表として昨年度より継続参加
刈水エコヴィレッジ 構想委員	メンバー	刈水地区のエコヴィレッジ構想委員として参加
(一社)小浜温泉 エネルギー	WGの運営・管理、日程調整、 その他事務作業	運営事務局として参加

